

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、「3 サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	利用者同士の関係を把握し、トラブルになりそうな利用者に対しては職員が間に入っているが、些細なことで言い争いやトラブルになる場合がある。	トラブルになりやすい状況を把握し、職員間で情報共有する事でトラブルを未然に防ぎ、利用者同士の関係が今以上に良くなるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士のトラブルについてケース記録に残し、職員間で情報を共有し、対策を考え実施する。 ・トラブルに発展する前に職員が直ぐに間に入り話題を変えたり役割活動を行う等、状況を変えることでトラブルを未然に防ぐ。 ・トラブルが起きてしまった際は、直ぐに仲裁に入り精神面でのフォローを行う。 ・ミーティング時や業務中、日々のケアの中で気付いた事や良かった対応を話し合い、共有し実施する。 	12ヶ月
2	48	利用者の希望に応じた外出支援を日常的に行っているが、希望が聞かれない人や介護度によって外出支援が少なく特定の利用者に偏りがちである。	自立した利用者だけでなく、介護度の重い方でも気軽に出掛けられるよう職員間で連携し、感染症対策を行った上で外出が出来るようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・希望の表示が困難な利用者は生活歴やご家族からの聞き取りを通し希望を推測し外出支援に繋げる。 ・自ら希望されない方は普段の会話の中から行きたい場所や思い出の場所等を引き出したり外出先の提案を行う。また、ケース記録に本人の言葉を残す事で全職員が把握し特定の利用者に偏らないよう計画的に行う。 ・リハビリ専門の助言を参考に、外出支援を生活機能向上に繋がられるよう個別計画に盛り込む。 ・一人一人の外出頻度をケース記録で把握し一定の利用者に偏らないようにする。 	12ヶ月
3	35	日頃から利用者の尊厳を損ねないような言葉遣いや対応を心掛けているが、日々の業務の中で状況によって口調が強くなってしまふ場合がある。	利用者の尊厳を守るよう、日々の関わりの中で言葉遣いや対応を職員一人一人が意識し業務を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングや業務中の職員間でどのような時の声掛けが強くなってしまふかを話し合い、改善策を考える。実際にその対応を行い都度振り返りを行い確認することで、職員の意識付けに繋げていく。 ・利用者への対応や声掛けで良かった点や改善点をミーティングでピックアップし情報共有し話し合いを行う。 	6ヶ月

4	27	日常生活の様子や支援経過をケース記録として残しているが、利用者によっては日々の様子や表情の記録が少なく実践に繋がられていない場合がある。	利用者一人一人に目を向け、日々の関わりの大切さを職員全員が意識する事で本人の言葉や表情等の気づきを記録に残し、実践に活かせるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を発する事が少ない利用者に対して、関りを多く持ち言葉や表情を記録に残すようにする。 ・ケース記録の情報をもとに、本人の楽しみ事ややりたいた事を把握し実践する。 ・日々の些細な言葉もケース記録に残し、職員全員で情報共有を行う。 	12ヶ月
5	36	自立している方に関してはご本人から希望を伺っているが、全員が同じ物を選ぶ事があり一人一人に希望を伺う必要がある。また、自己決定が困難な方に関して、ご家族からの情報が不足している。	一人一人の希望を伺う事で自己決定が出来、その人らしい生活が送れるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・希望を伺う際は、個別に伺うように配慮し一人一人が自分の思いを伝えられるようにする。 ・ご家族が来園した際に、ご本人の好きな物等を聞きケース記録に残す。 	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	利用者同士のトラブルが見受けられた。介護職員が仲介に入っても利用者個々の性格やこだわりもあり利用者全員の交友関係がバラつきがあった。	同じユニットの仲間なんだと思えるような生活、今まで通り穏やかで楽しい生活が出来る様に支援を行う。	以前トラブルの原因となったものを介護職員同士で情報共有を行い未然にトラブルを防ぐようにしつつ、共に楽しむ活動や共通の話題を提供し楽しく生活出来る様に支援する。	6ヶ月
2	47	現在、行動が制限される中より役割活動、レクリエーションがパターン化し偏りが出てきている。	本人による要望(好きな事を見出す)、生活歴を整理し充実した楽しみ事を増加させる。	小規模でも一人ひとりに焦点を合わせたイベント(楽しみ事)を計画し実施する。利用者ADLに合わせてもう少しで叶うものなら介護職員も一緒に楽しみ充実した時間を増加させる。	6ヶ月
3	35	日頃から利用者の尊厳を守り傷つけない声掛け、関わりを行っているが時に介助を急いだり、ケアが重なった時に介護職員が焦り状況によっては口調が強くなる事もあった。	どんな状況でも基本忠実に正確かつ冷静な声掛け、利用者主体であることを忘れない。	誰のための支援なのかを今一度介護職員同士が日々の申し送りやユニットミーティングを通し話し合い一人ひとりの意識を高める。疑問に思ったことは積極的に声をあげユニット全体で質の高いケアを目指す。	3ヶ月
4	27	日々の暮らしをそれぞれ記録に残しているが本人の言葉が不足していたり、簡単な内容になる事があった。	本人と他者、本人と介護職員の会話をありのままを記録に残してから内容の整理を行う。	最初からパターン化した記録を残すのではなく、ありのままの会話や気になったフレーズ等小さな事でも文字起こしを行い、記録に残した後で中身の整理を行う事で内容の濃い記録となる。	3ヶ月
5	53	使い慣れた物や好きな物をもう少し取り入れ、より居心地の良い生活支援を行う必要がある。	本人や家族に聞き取りを行い、早期に取り組めるようにする。	本人、家族に好きな物、好きだった物、肌身離さず使用していた物の聞き取り等を行い居室内での居心地が更に良くなるように声援する。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、「3 サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	37	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の都合が優先され、入居者様のペースを尊重しきれなかった。 ・意思疎通困難な方の思いを汲み取ることが不足していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのペースを把握し、職員の都合を優先させない。 ・入居者様全員が生き活きと過ごすことが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の都合や業務を優先させずに常に入居者様の立場になって考える。 ・業務の見直しにより余裕を持ったゆったりとした雰囲気を作る。 ・日頃の表情や反応から思いを推察し職員同士で共有する。 	3か月
2	47	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様一人ひとりの楽しみを把握しきれしていない。 ・認知症のレベルの差が大きく、ご本人の状態に合わせた活動の提供が不足し画一的になっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様全員が生き活きと過ごすことが出来る。 ・役割活動を通し出来る事を増やすことで意欲のある生活を送る事が出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画一的な活動の提供は無理な方も出てくる。少人数ずつグループ分けし、状態に合わせた活動を提供する。 ・入居者様の状態を職員全員が把握し、出来る事を見極め役割活動を提供する。 	3か月
3	35	<ul style="list-style-type: none"> ・意識せずにプライバシー侵害している場面があった。 ・入居者様にも聞こえてしまう場所での申し送りや情報共有する場面があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が受けたくない対応はしない。 ・安心して気持ちよく過ごすことが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に自分が受けても問題ない対応を行う。 ・安全面でも場合でも常にご本人の同意を得てから対応する。 ・プライバシー侵害の恐れがある場面を職員同士で共有し対策を講じていく。 	3か月
4	25	<ul style="list-style-type: none"> ・役割活動への参加が特定の入居者様に偏ることが多かった。 ・入居者様に代わり職員が行ってしまうことが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の主体者である事を実感出来る。 ・意欲を持って生き活きと生活することが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その人に合った役割活動を職員全員で検討し提供する。 ・些細な事でも入居者様と一緒にいき活躍の場を広げる。 	3か月
5	36	<ul style="list-style-type: none"> ・職員本位や都合で決めることが多々にあった。 ・希望の確認が抜けることがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の主体者である事を実感出来る。 ・自分の希望や意向が叶う事で満足感を得ていただき意欲のある生活を送ることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務を優先させずに意向を確認してから取り組む。 ・意向確認が難しい方の場合はその方の立場になって一緒に考え、ご本人へも伝える。 	3か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、「3 サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	37	決まっている一日の時間の流れと集団生活を重視してしまいパターン化になりがちであった。	時間にとらわれずに本人希望を重視し一人ひとりのペースで生活ができるよう支援ができる。	・時間にとらわれる事のない様に業務の見直しを図り、本人の希望を重視した支援を提供できるようにする。	12ヶ月
2	36	意思疎通困難な方の真意が分からず、思いや希望を汲み取る事が出来ずに職員本位な支援になっている事があった。	一人一人の希望の表出や自己決定ができるような環境をつくる。	・日常の会話で出た言葉を聞き逃すことなく情報収集に励み職員間で共有し、希望や思いを把握する。 ・最初から答えを求めずに選択肢を設けながら徐々にみつけていく。	6ヶ月
3	47	入居者様それぞれの理解力やADLに合った役割活動を提供できていたのか、特定の人に偏ってしまっているところがあった。	認知症の進行による理解力低下、ADLの低下がみられても出来る事を見つけて、入居者様全員が生きがいをもって生活を送れる。	・できなくなった事には拘らず、新たにできる事はないか日常の関わり合いから探し、発見した事は、職員間で共有し協力し合い提供していく。	6ヶ月
4	21	行動を予測してトラブルを未然に防ぐようになっているが、些細な事から一方的に相手に対して悪い印象を持ってしまい被害妄想に発展する場面があった。	良好な人間関係を築き楽しく生活を送ることが出来る。	・会話の内容や表情を観察しトラブルになりそうな時は、職員間に入り、会話を交えたり、お互いを無理なく引き離し役割活動や散歩などで気分転換を図る。職員に訴え事があった場合は、傾聴に徹する。	12ヶ月
5	35	・他入居者様の見守りをしながらトイレ介助をする際、扉をしっかり締めずに対応する時があった。 ・場所を考慮せずに入居者様のプライバシーに触れる話をする事があった。	一人一人尊厳を持ちながら適切な支援ができる	・常に職員同士が注意し合えるような環境を作り、プライバシーに反する場面や状況を職員で共有する。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。